

車いす・足腰が不安なシニア層の 国内宿泊旅行拡大に関する調査研究

国土交通省 国土交通政策研究所
主任研究官 坂井志保

平成27年 5月20日

1. 国内旅行市場におけるシニア層の重要性

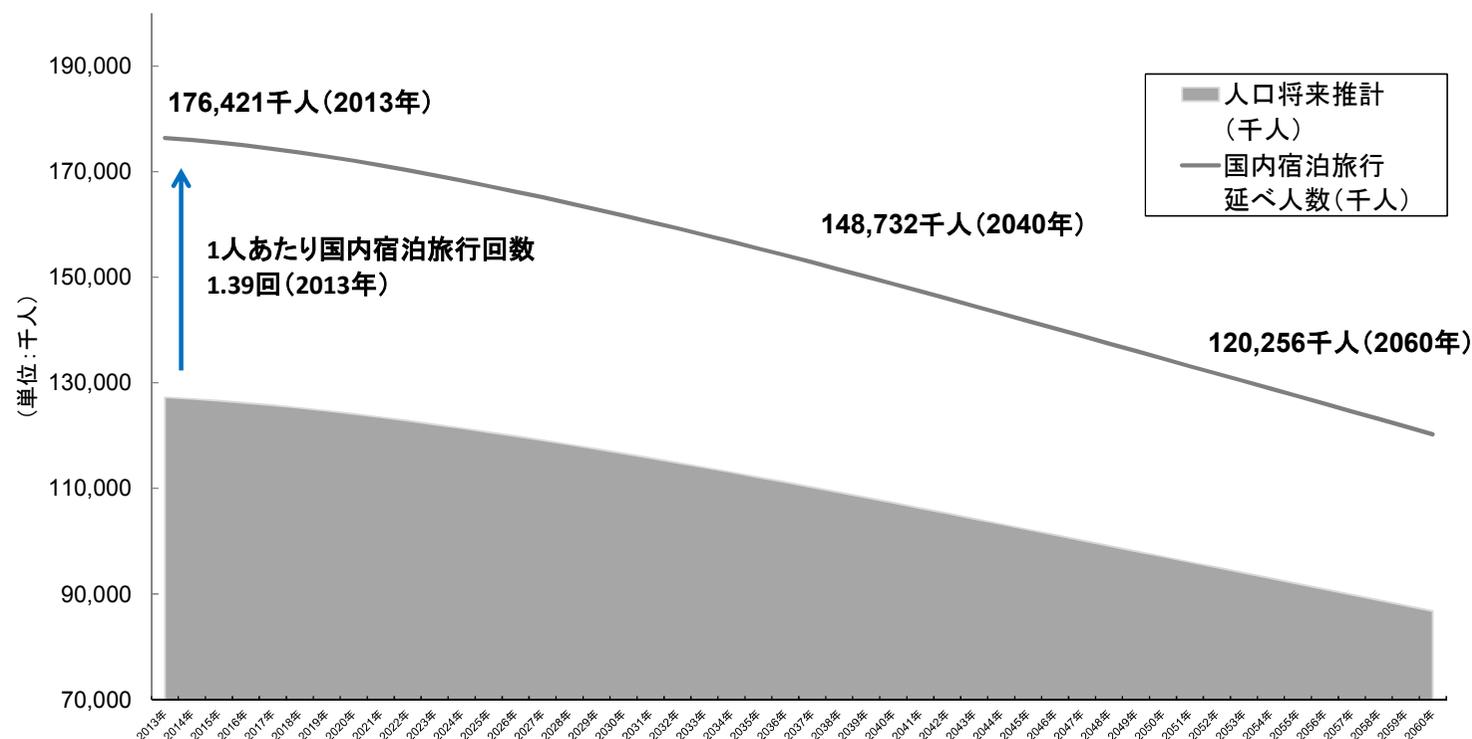
(1) 将来人口の推移と旅行回数

○ 日本の将来人口

2013年約1.27億人 → 2040年約1.07億人 → **2060年約0.87億人**

○ 日本の国内宿泊旅行延べ人数 (平均旅行回数が2013年から変化しない場合)

2013年約1.76億人 → 2040年約1.49億人 → **2060年約1.20億人**

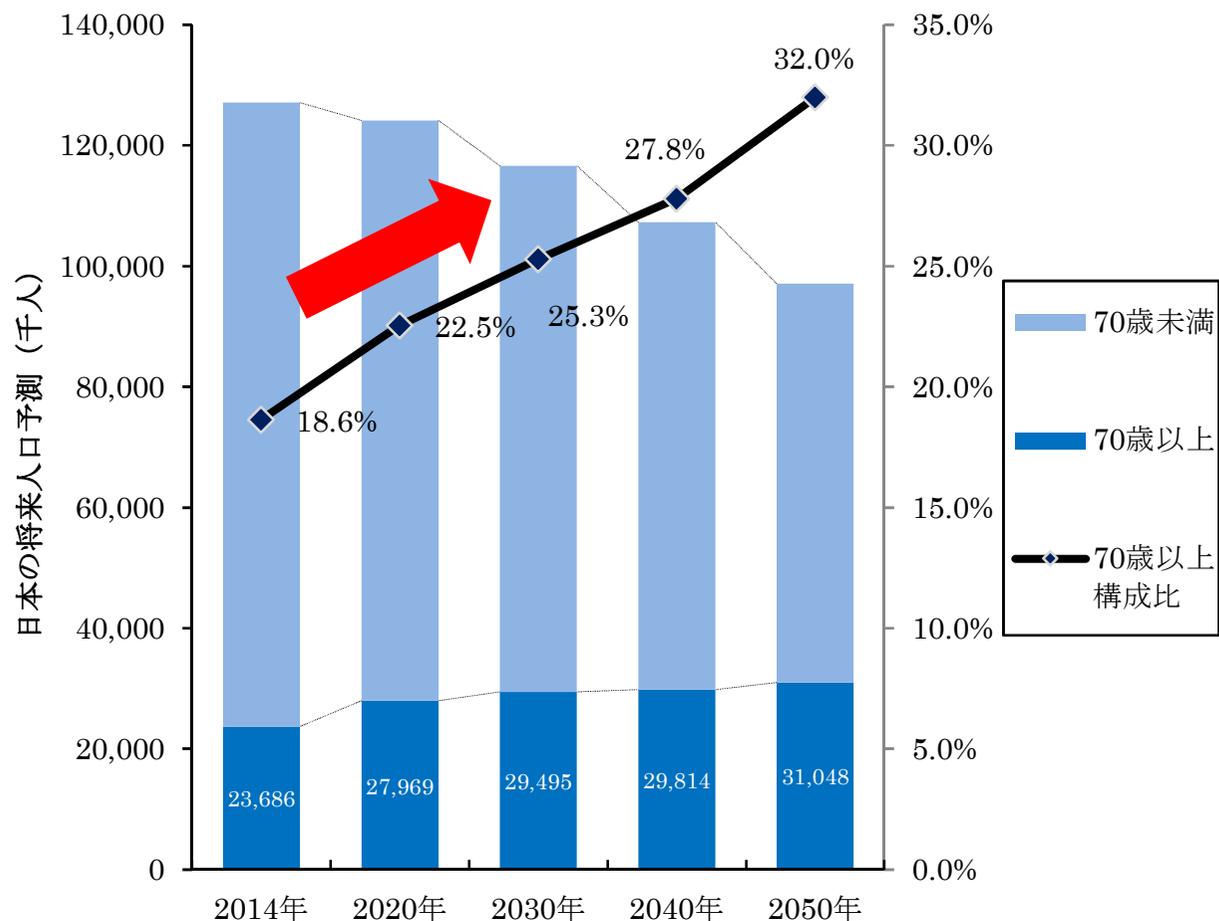


図表 一人当たり国内宿泊旅行回数 (年代別) 国土交通政策研究所推計
 出所: 人口問題研究所「人口将来推計 男女年齢各歳別人口:出生中位(死亡中位)推計」
 国内宿泊旅行延べ人数 (2013年)は観光庁「消費動向調査」
 (国内宿泊観光旅行延べ人数は、観光・レクリエーション目的の合計値である。(帰省等は除く))

1. 国内旅行市場におけるシニア層の重要性

(2) 70歳以上のシニア層の将来人口

○ 総人口が減少する中で、70歳以上のシニア層は、2048年頃まで増加



図表 将来の総人口と70歳以上の構成比

出所：2014年の数値は総務省統計局「人口推計 平成26年11月報（2014年6月確定値）」

将来の数値は人口問題研究所「日本と将来推計人口・出生中位（死亡中位）推計（2012年1月推計）」より作成

1. 国内旅行市場におけるシニア層の重要性

(3) シニア層の旅行回数を維持できた場合のインパクト

仮定

- ① 現在の70代以上の高齢者が60代と同じ回数(1.62回)を旅行すると仮定した場合
- ② 現在の60代が10年後に年間旅行回数1.62回を維持出来ると仮定した場合

| | 人口(千人) | 国内宿泊旅行延べ人数(千人) | 一人当たりの平均回数 |
|-------|---------|----------------|------------|
| 計 | 127,247 | 176,422 | 1.39 |
| 9歳以下 | 10,504 | 14,392 | 1.37 |
| 10代 | 11,801 | 15,391 | 1.30 |
| 20代 | 13,039 | 20,743 | 1.59 |
| 30代 | 16,740 | 24,193 | 1.45 |
| 40代 | 18,076 | 23,954 | 1.33 |
| 50代 | 15,457 | 21,793 | 1.41 |
| 60代 | 18,364 | 29,795 | 1.62 |
| 70代以上 | 23,266 | 26,215 | 1.13 |

①でも②でも
年間旅行回数1000万回増加

単価5万円とすると、

旅行消費額5000億円増加

図表 一人当たり国内宿泊旅行回数(年代別)

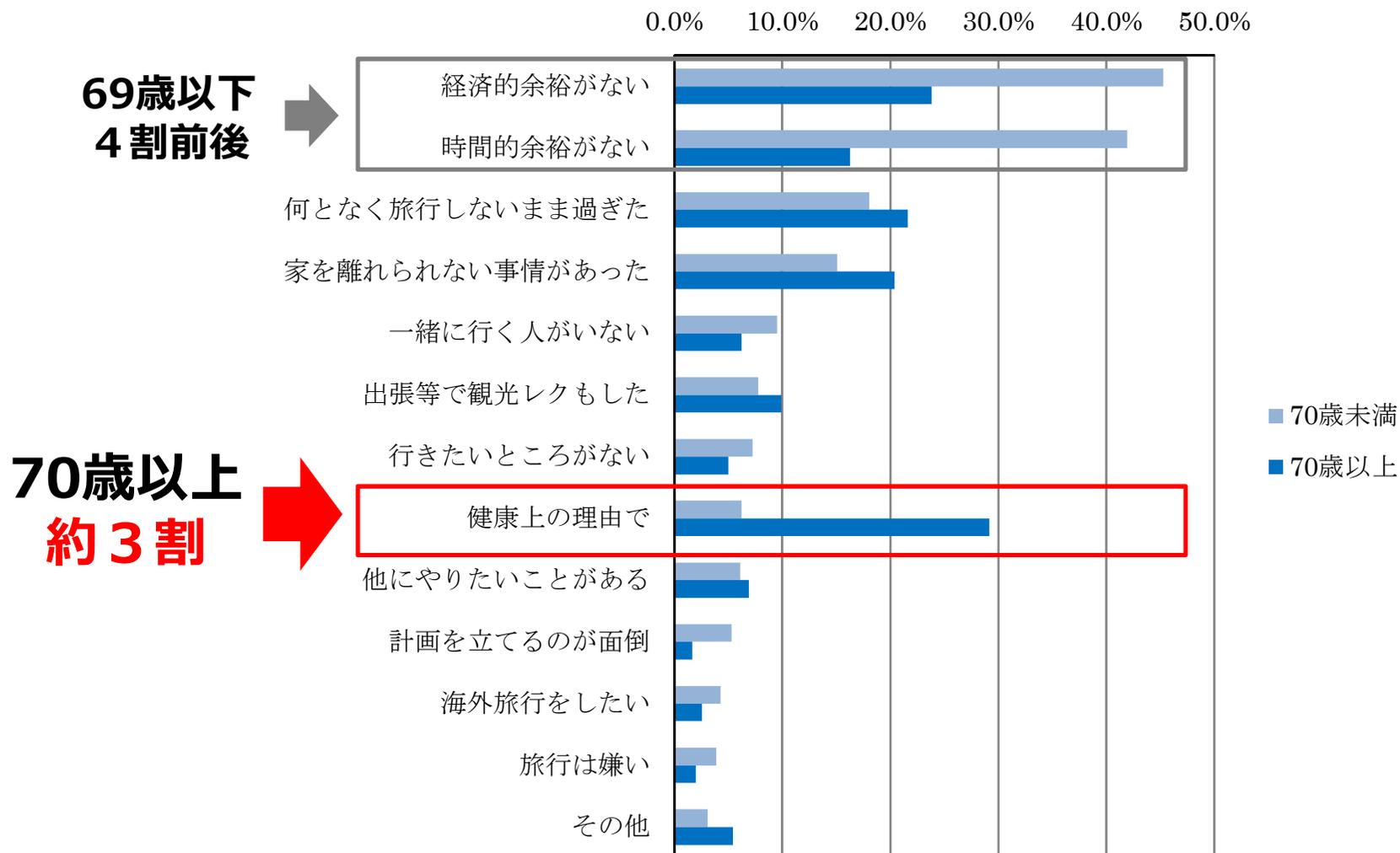
出所：人口：総務省統計局「人口推計 平成26年11月報(2014年6月確定値)」より

国内宿泊観光旅行延べ人数：2013年は観光庁「消費動向調査」より

国内宿泊観光旅行延べ人数は、観光・レクリエーション目的の合計値である。(帰省等は除く)

1. 国内旅行市場におけるシニア層の重要性

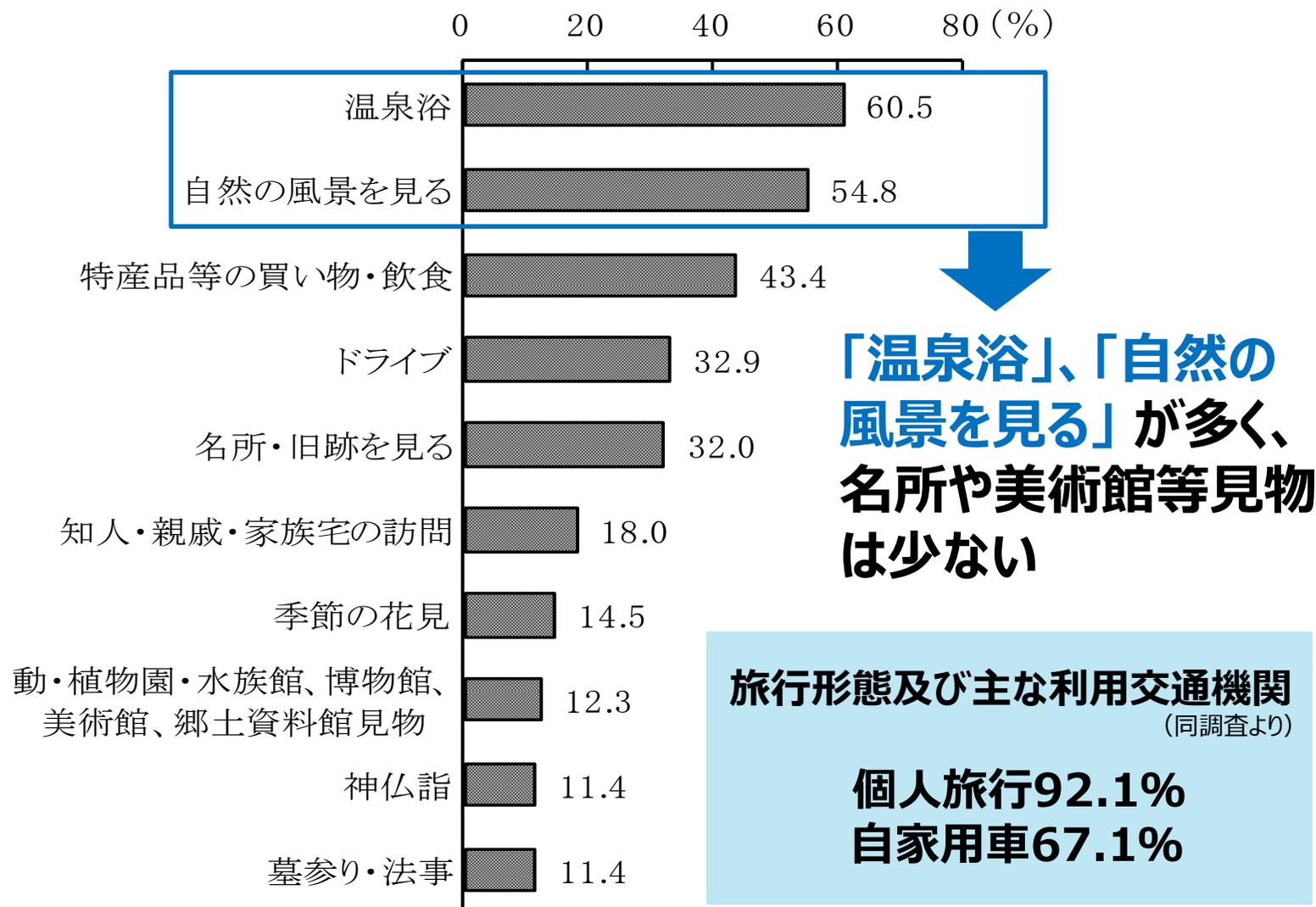
(4) 70歳以上のシニア層が国内観光旅行をしない理由



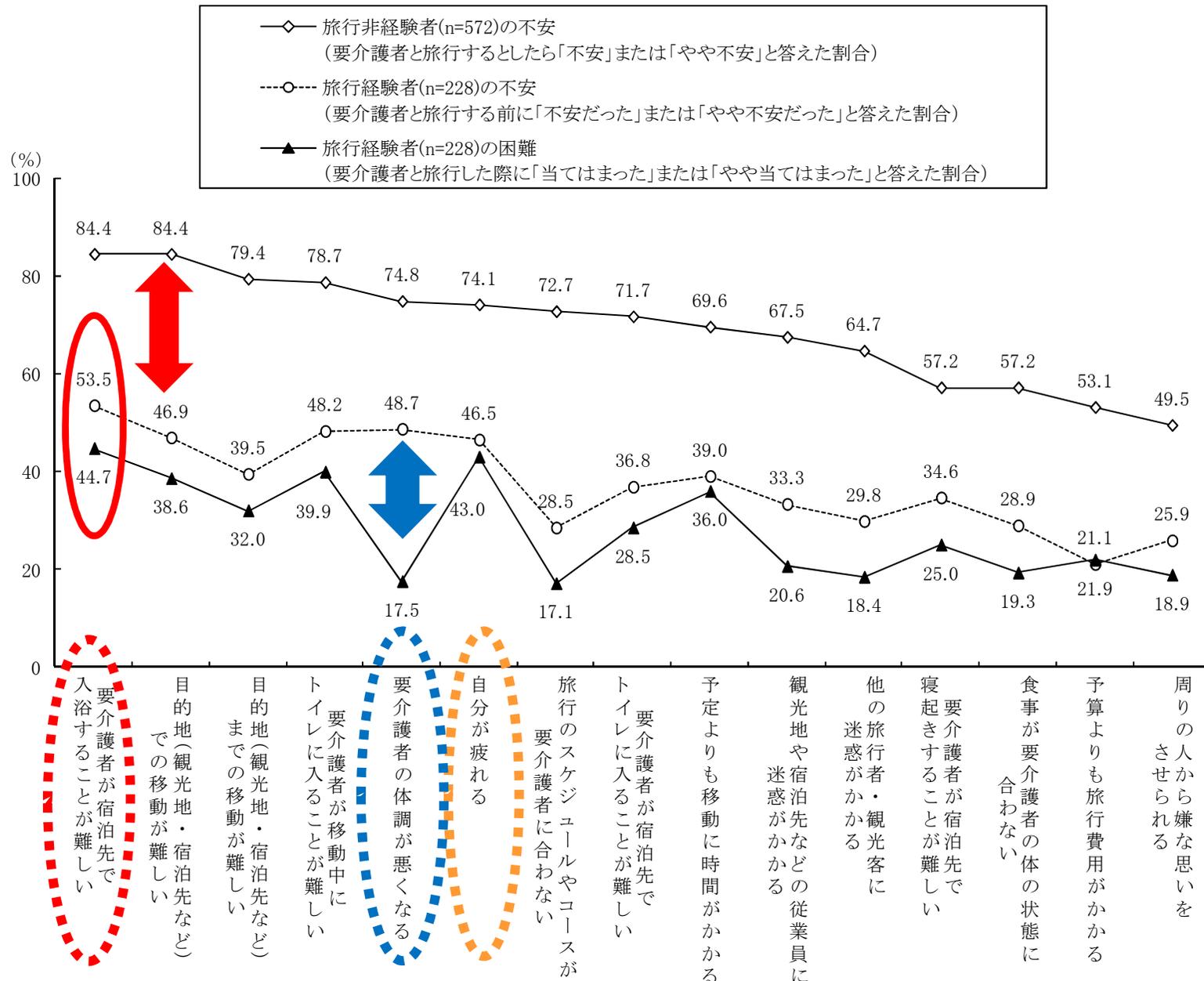
図表 国内観光旅行をしなかった理由
出所：日本観光振興協会「国民の観光に関する動向調査」（2013）より作成

2. 要介護者の旅行の実態(旅行先で行ったこと)

家族を介護している800人に実施したアンケート調査 (2013)

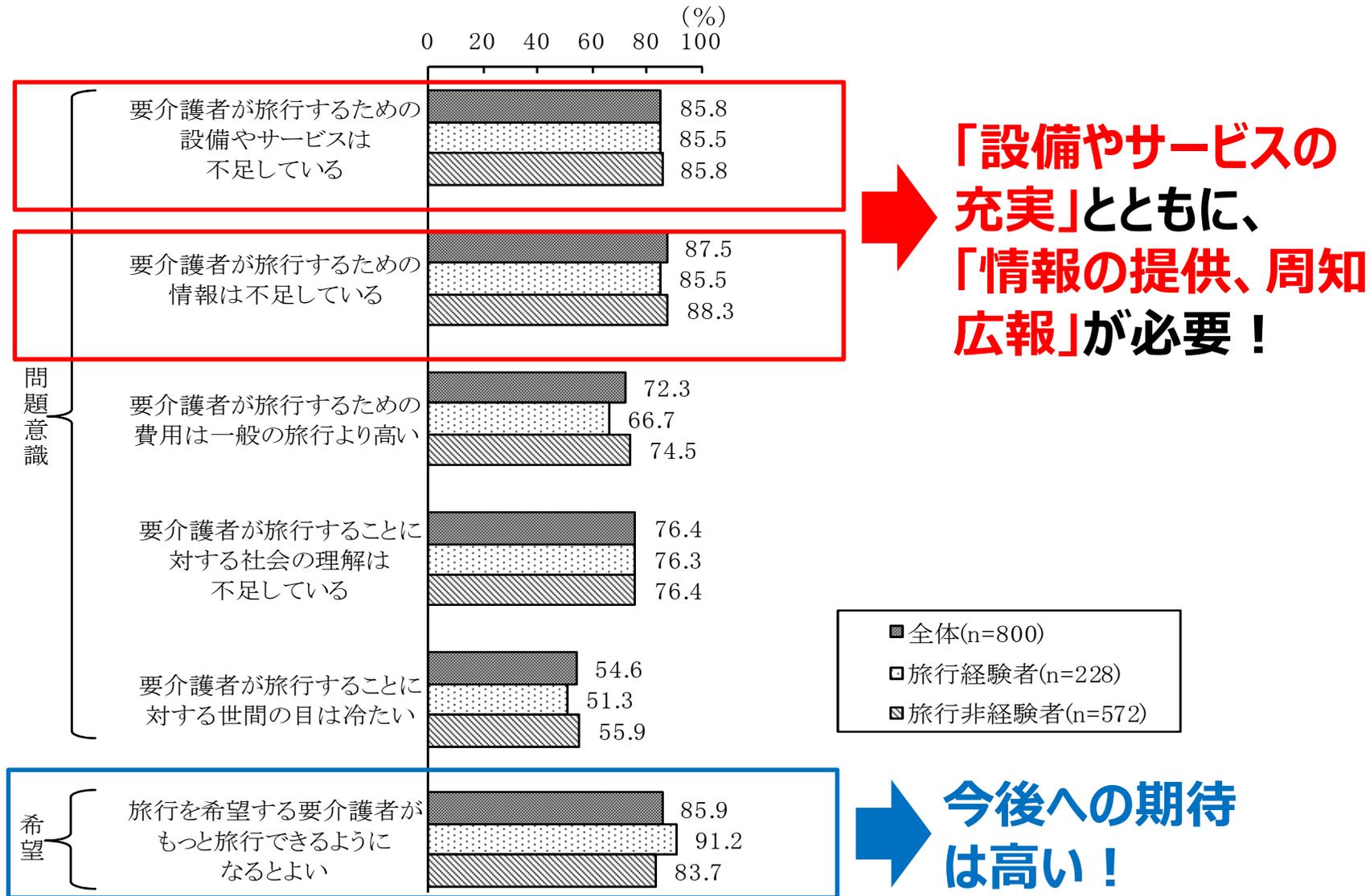


2. 要介護者の旅行の実態(旅行への不安、旅行時の困難)



図表 要介護者との旅行に対する不安、旅行時の困難 出所：水野映子「要介護者の旅行を阻害する要因」(2012) P.21 図表6

2. 要介護者の旅行の実態(旅行環境への問題意識・希望) 国土交通省



3. 現状の取組

(1) バリアフリーに向けたハード対策

- 交通分野では、駅のエスカレーター、サービスエリアや道の駅の障害者用トイレ等のバリアフリー化はかなり進んでいるが、宿泊施設のバリアフリー化は容易ではない。但し、備品や従業員の工夫などにより、対応している事例もある。

(2) ユニバーサルツーリズムの普及に向けた地域の受入体制

- 観光庁では、「ユニバーサルツーリズムに対応した観光地づくりのための地域の受入体制強化マニュアル」を作成、公表し、地域の取組への活用を促進しているが、資金等の地域での課題も少なくなく全国展開は容易ではない

(3) 旅行会社の取組

- 障害者専門の旅行会社による旅行商品の販売や、トラベルヘルパー等の資格養成も進みつつあり、大手旅行会社でも高齢者向けの旅行商品の販売等を行っている。他方、介助者の同行等は料金が高くなるとともに、介護旅行の掲載は特別なパンフレットに限られ一般的に認知度は低い。

(4) 情報提供

- 宿泊検索サイトでは「バリアフリー」のキーワード検索が行えるようになっているが、その基準が不明確で、利用者にとっては使いづらい
- 全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）は「高齢者に優しく、全ての人に利用しやすい宿泊施設」のコンセプトで、シルバースター登録制度を運用しているが、必ずしも車いす・要介護者への対応ができるとは限らない

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

課題

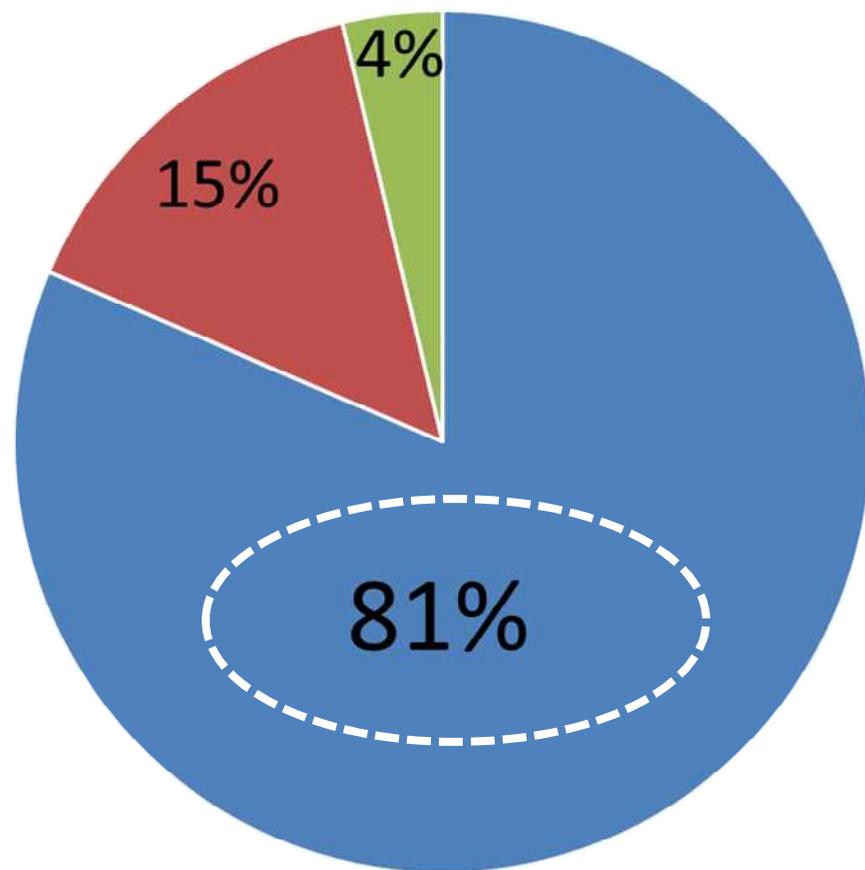
- 宿泊施設における、車いす利用者の受入れの拡大や入浴介助サービスの普及
- 必要とされる情報が車いす利用者や家族に届く仕組みの構築



宿泊施設へのアンケート調査を実施

| | |
|------|----------------------------------|
| 調査対象 | 全国宿泊施設 (全旅連シルバースター部会及び青年部に所属) |
| 実施時期 | 平成27年3月25日～4月20日 |
| 回収件数 | 372件 |

車いす利用者の受入れ経験



(n: 全体372)

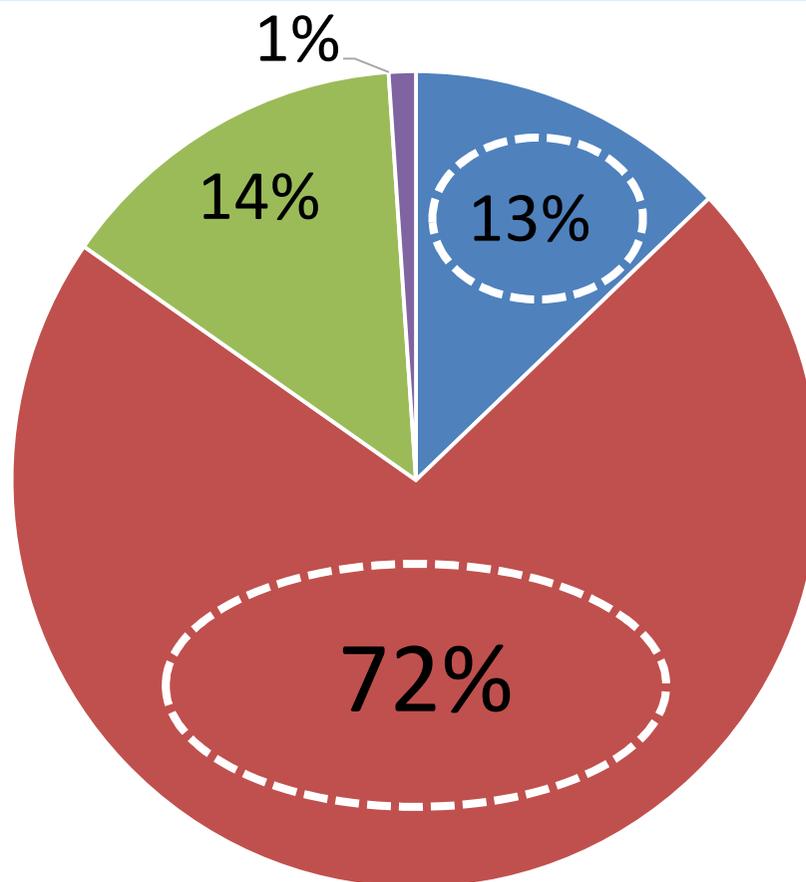
■ あり

■ なし

■ 未回答

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

車いす利用者の受入れ意向



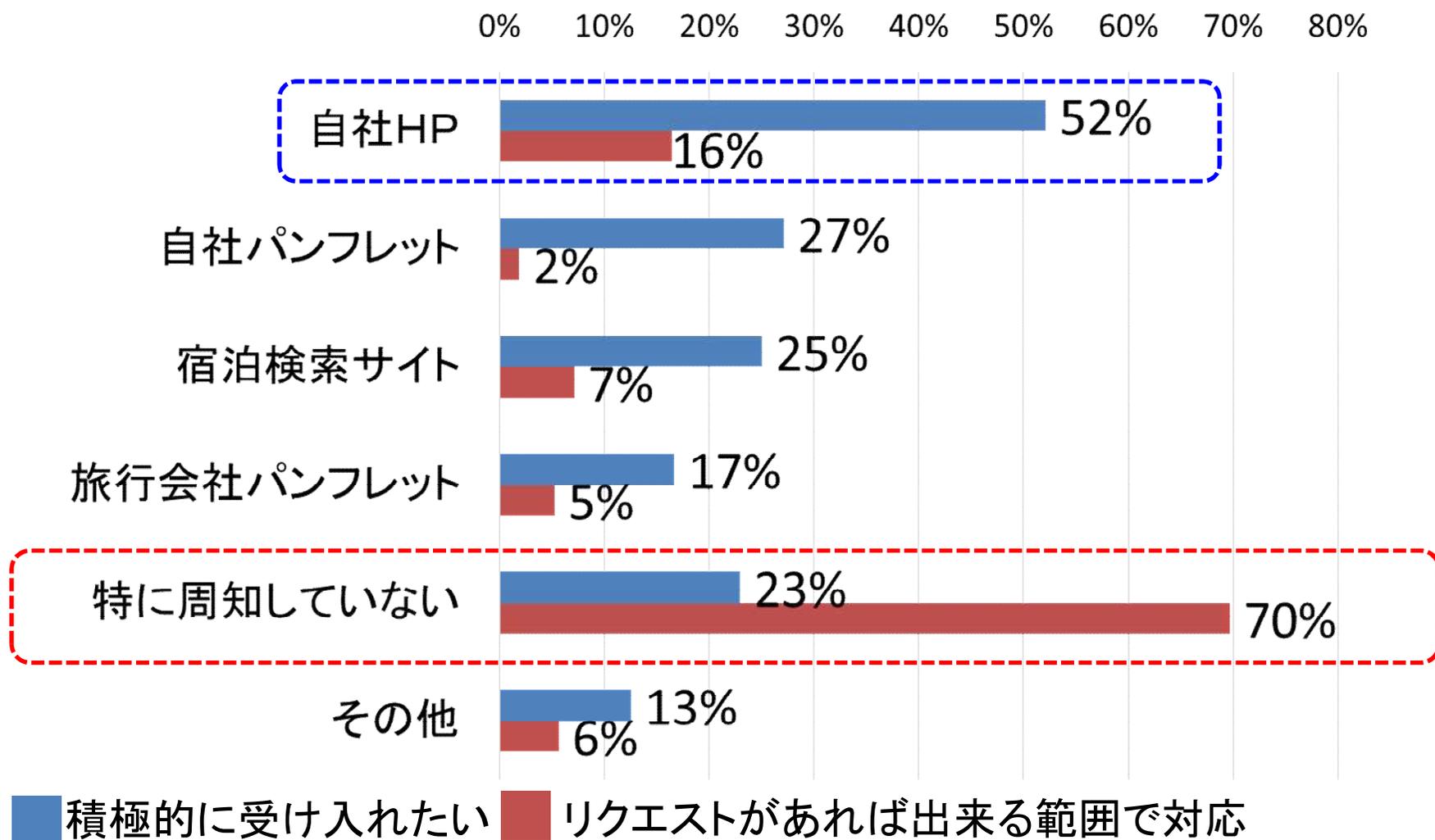
(n: 全体372)

- 積極的に受け入れたい
- リクエストがあれば出来る範囲で対応
- 対応が困難
- 未回答

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

車いすの受入れに関する周知

※複数回答

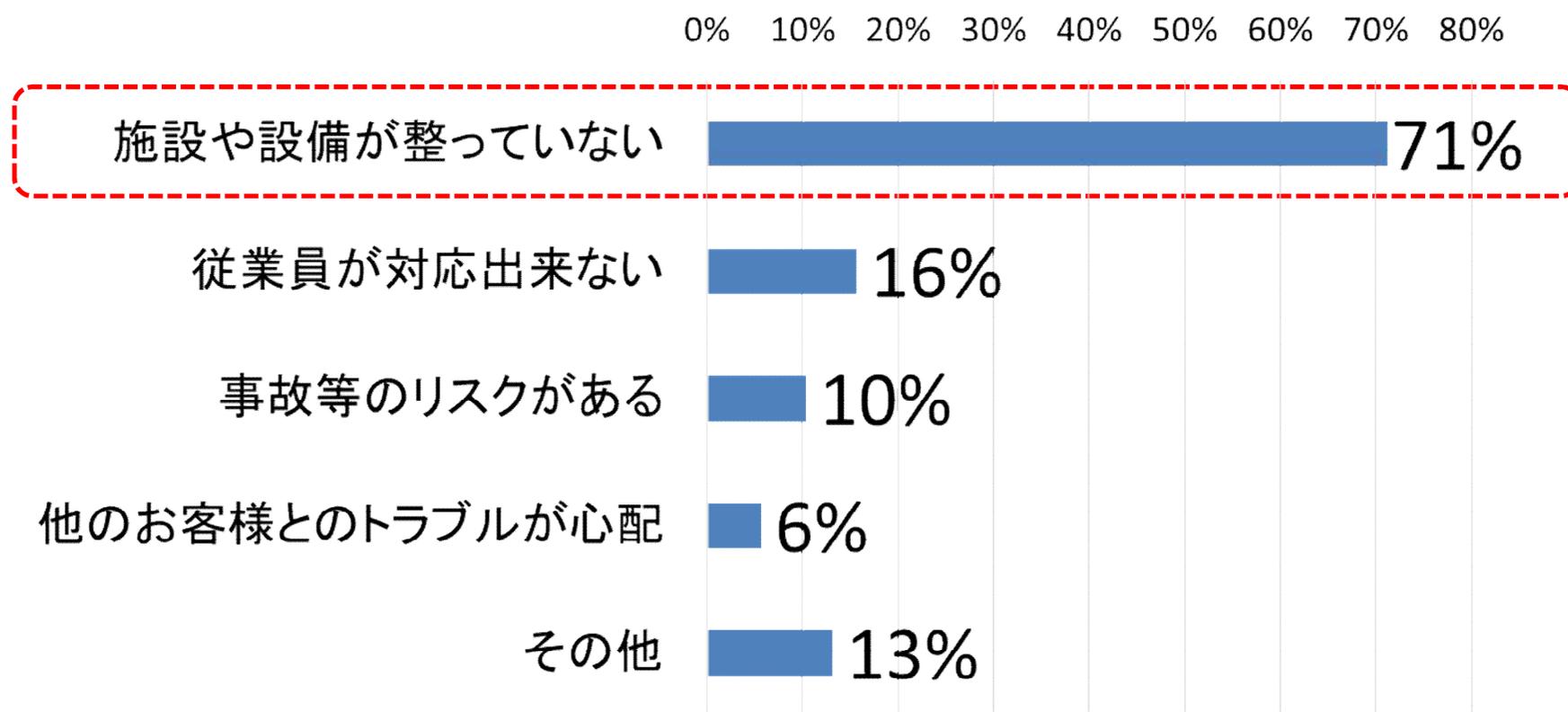


(n: 積極的48・リクエスト対応267)

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

「リクエストがあれば出来る範囲で対応」 「対応が困難」の理由

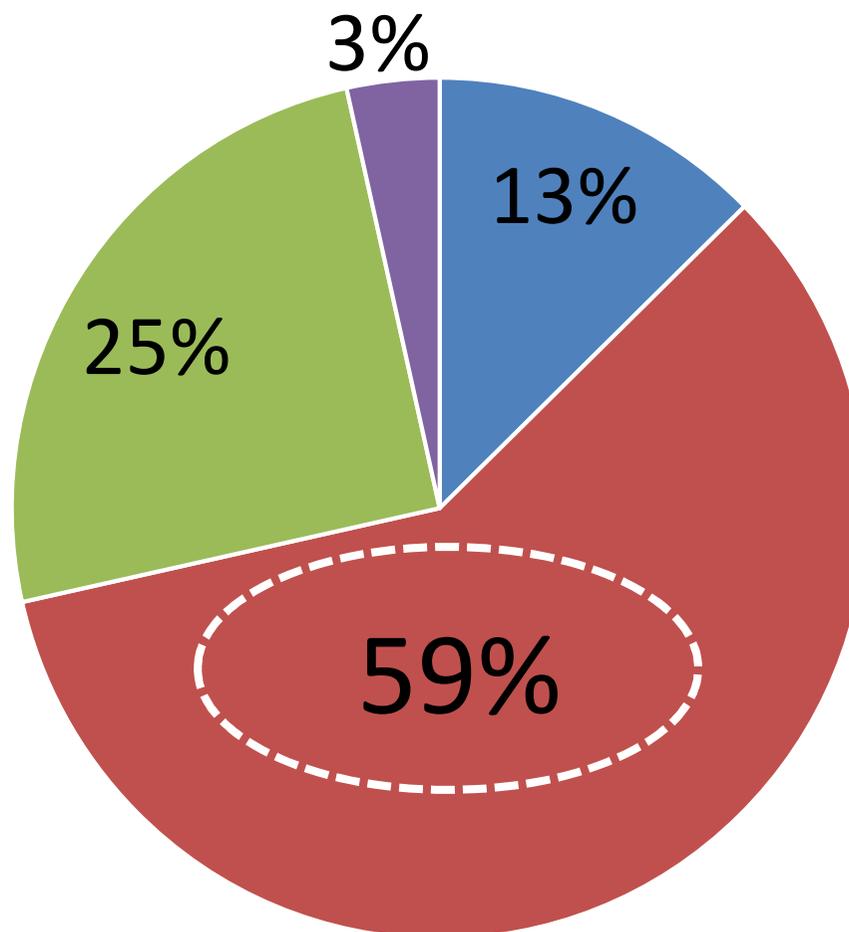
※複数回答



(n: リクエスト対応・困難320)

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

設備等の状況 ①館内



■ 全館利用可

■ 基本経路概ね可

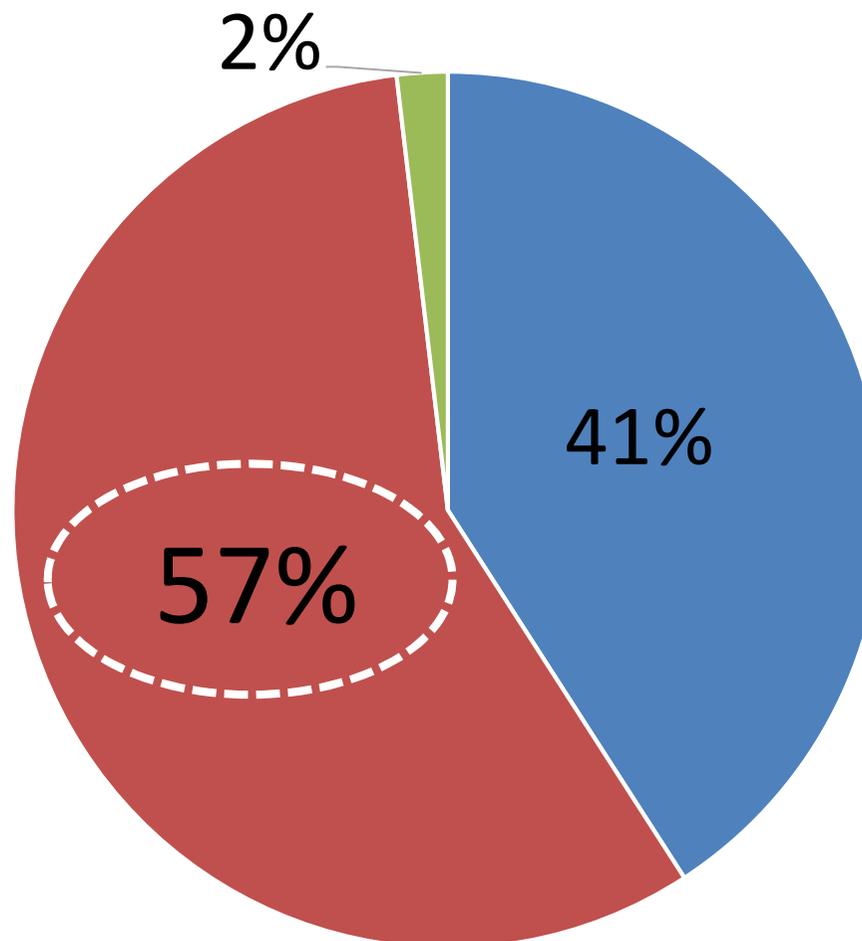
■ 困難

■ 未回答

※ロビー、客室、風呂、食事処への移動

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

設備等の状況 ②客室



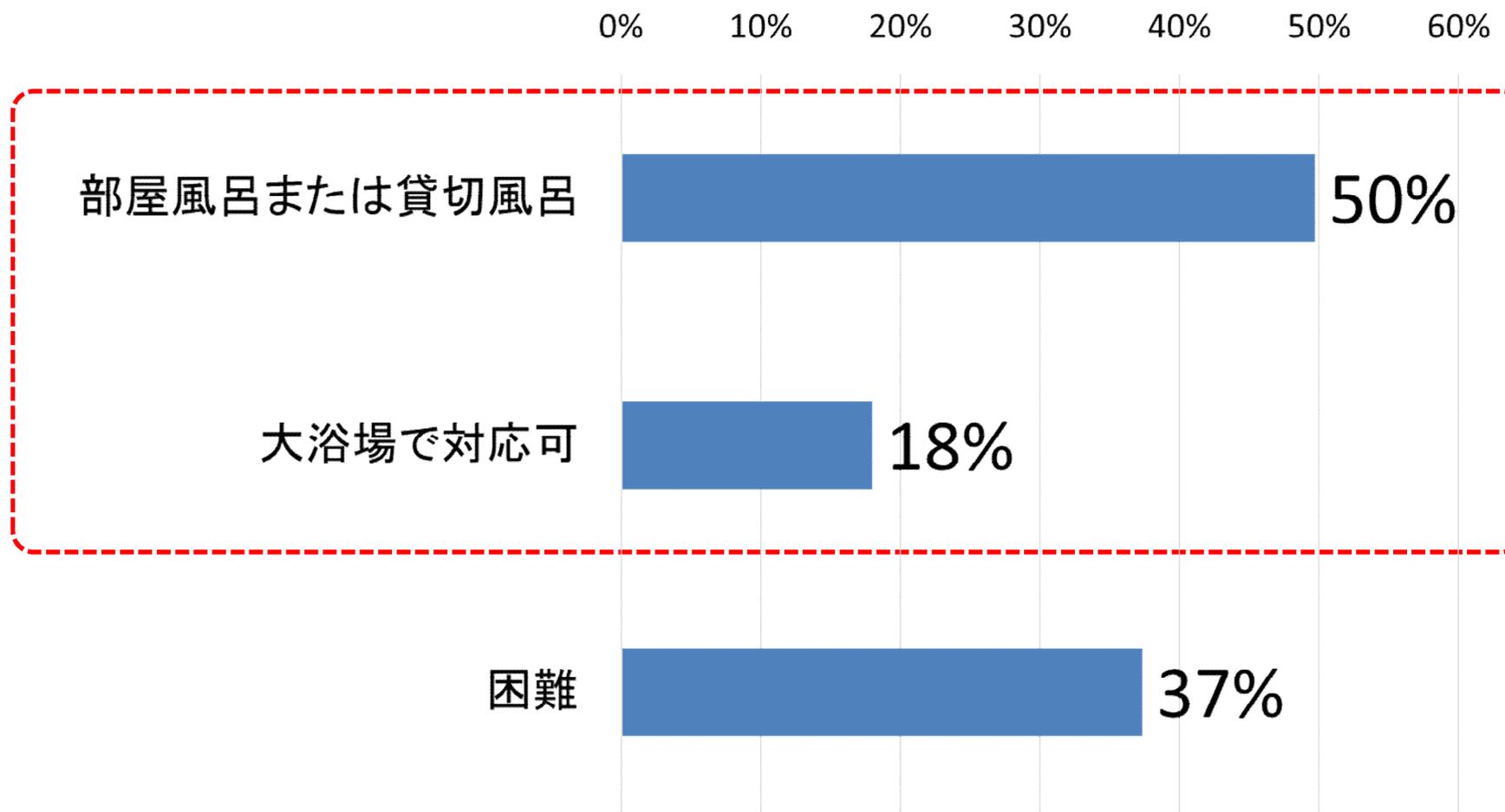
■ バリアフリールーム、または準ずる洋室・和洋室あり
 ■ なし
 ■ 未回答

※入り口車いす可、ベッド、手すり付き洋式トイレあり

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

設備等の状況 ③風呂

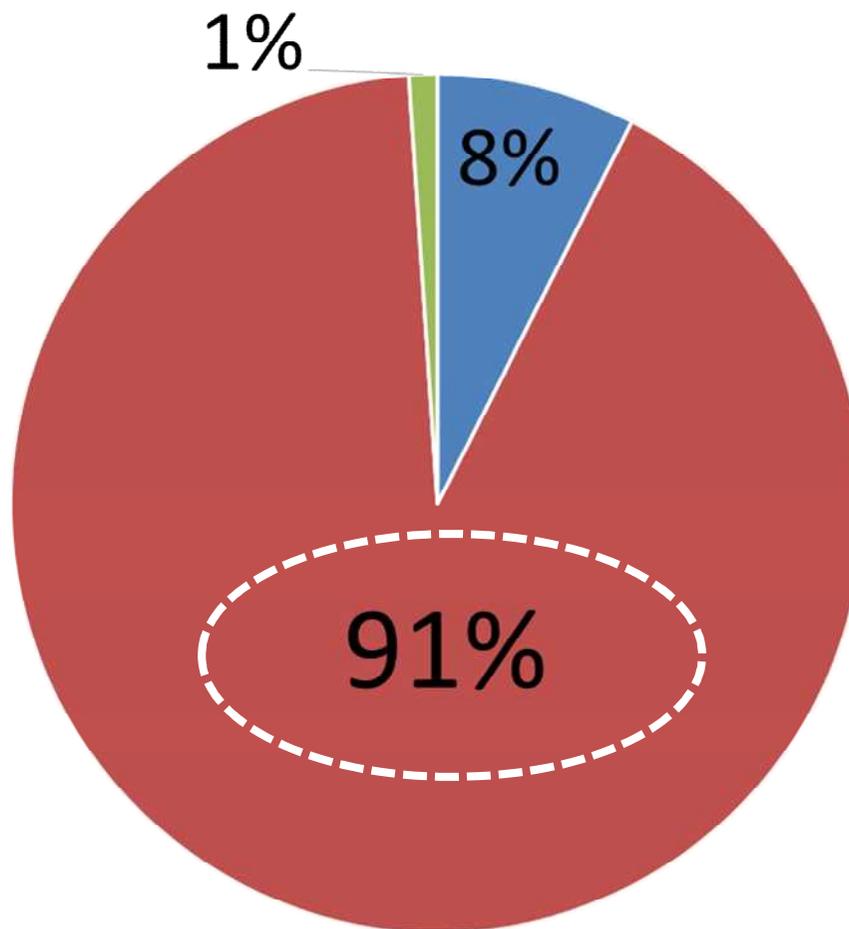
※複数回答



(n: 全体372)

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

入浴介助サービスの提供(他社への委託等を含む)



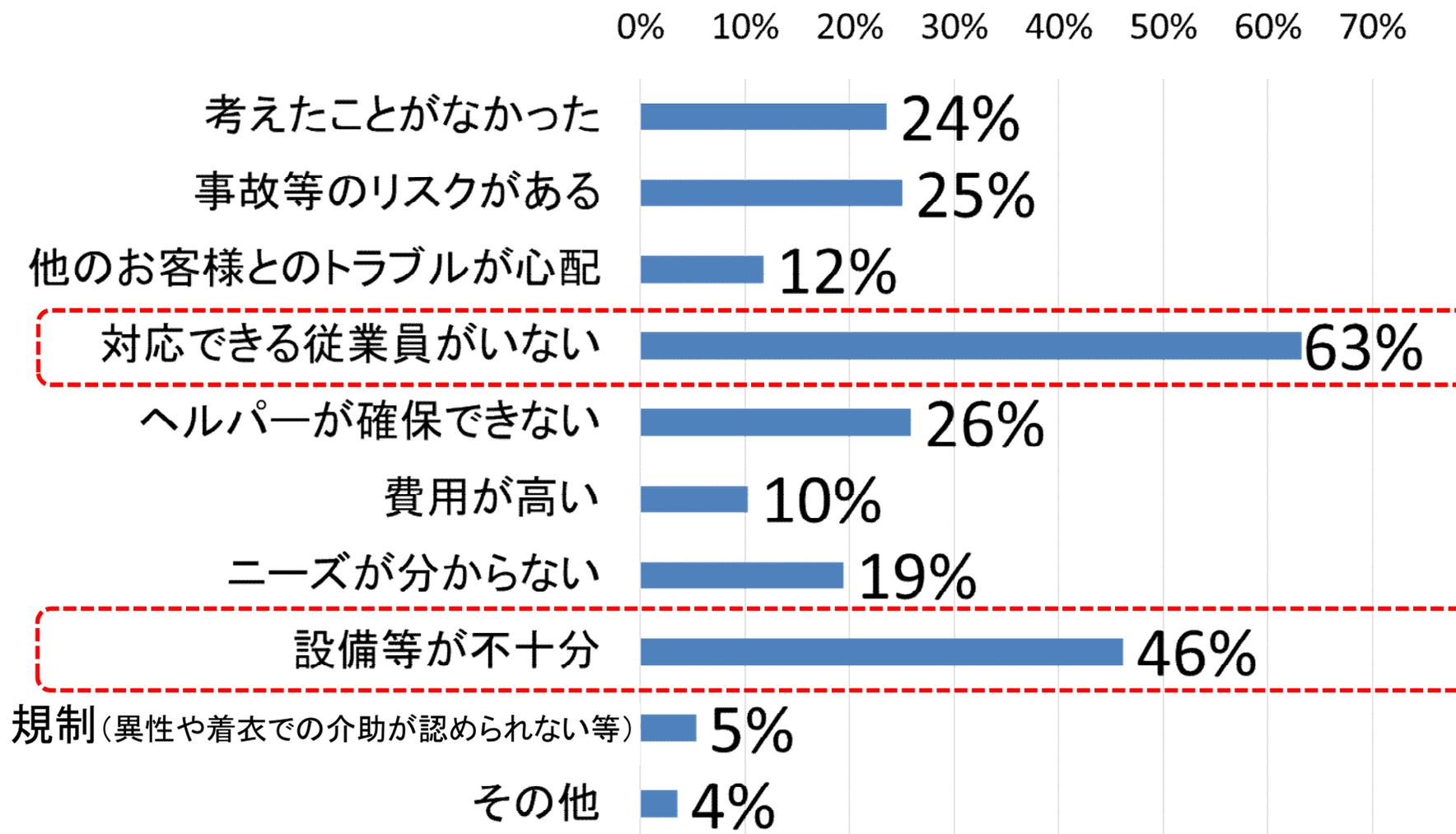
(n: 全体372)

■ ある ■ なし ■ 未回答

4. 宿泊施設へのアンケート調査(概要)

入浴介助サービスの提供をしない理由

※複数回答



(n: 340)

5. 今後の調査研究の方向性

アンケート結果の考察

車いす利用者の受入れ経験は約8割

- しかしながら
- ✓ 施設や設備等が整っていないこと等を理由に、「積極的に受け入れたい」は少ない
 - ✓ 受入れに関する情報提供は行っていない、もしくは自社HPでの掲載がほとんど
 - ✓ 入浴介助サービスの提供については、全国で28軒と極めて少ない

- 本格的なバリアフリーでなくとも、備品の整備や従業員教育等の工夫で、相当程度対応できることを周知することが必要
- 経営上の成功事例や介助旅行の市場規模や拡大の見通しをまとめることにより、経営者に受入れ促進を図ることが必要
 - ⇒ **マニュアル・事例集・市場分析レポートの作成**
- 車いすを受け入れる施設として掲載する基準案を作成することにより、一般旅行パンフレットや宿泊検索サイト等における情報提供を促進することが必要
 - ⇒ **基準案の検討**
- 先行事例から介護事業者等との連携方法等をまとめることにより、入浴介助サービスの導入促進を図ることが必要
 - ⇒ **事例集の作成**